

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0892200072		
法人名	有限会社 エスエス住建		
事業所名	グループホームこもれ陽の家		
所在地	茨城県鹿嶋市和941-12		
自己評価作成日	2021年9月10日	評価結果市町村受理日	2022年1月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JirgvsyoCd=0892200072-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 認知症ケア研究所
所在地	茨城県水戸市酒門町4637-2
訪問調査日	2021年11月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に囲まれた場所に立っており、静かな環境の中で生活している。敷地隣には自社の畑があり、採りたてで新鮮な野菜を食事に提供している。月1回の外食会や季節行事で外出を定期的に行っていたが、今年度はコロナ感染症対策で外出を中止している。代わりに利用者様が食事を楽しんで頂けるよう、希望を聞き、刺身や寿司等をテイクアウトして提供したり、。饅頭を購入しておやつに出すなどしている。行事も工夫して行っており、今年度は準備から、利用者様と職員と一緒に創作し、手作りの夏祭りを行った。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

林の木々に四季を感じ、畑から収穫した旬の野菜を食する、豊かな自然に囲まれたグループホームである。1ユニットで、利用者と職員が「笑顔でいきいき」とした日常生活を送っている。コロナ禍でも、散歩で近所の方とあいさつしたり、刺身や寿司を近所のお店に頼んだり、掃除ボランティアの方がきてくれるなど、地域との繋がりを絶たない生活をしている。利用者は廊下に掲示した着物の写真や、行事の写真で自分の顔を見つかけたり、その場を思い出したりすることができている。職員は、行事の文字を書いてもらったり、台拭きや繕い物をお願いしたり、野菜の下ごしらえを頼むなど、利用者が役割を担う支援をしている。コロナ感染予防に対し、系列のグループホームと共同で万全な対策を講じている。***新型コロナウイルス感染予防の観点から、訪問調査は通常より時間を短縮し、簡潔に実施。**

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は玄関に掲示しており、出勤時「笑顔でいきいき」を確認し、念頭に置きながら業務にあたっている。	玄関に理念の『笑顔でいきいきこもれ陽の家』を掲示し、職員は日々理念を確認し、利用者に向き合っている。職員は、1日1回は利用者の笑顔を引き出せるように支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度はコロナ感染症予防の為、地域住民との交流は難しいが、屋外行事で、周辺を散歩している方へ声をかけたり清掃ボランティアの方との交流は行っている。	コロナ禍ではあるが、近所の方が犬の散歩中に立ち寄りたり、畑の花や大根、サツマイモの出来をほめてくれるなど、地域に根差した交流が継続されている。窓清掃ボランティアの方と窓越しに挨拶を交わす姿は微笑ましい。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	電話での相談はいつでも受け付けているが、感染症対策の為、今年度は見学や交流会などはできていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者様の希望や施設での生活、行事などの様子を伝えている。又、推進会議で出した意見をカンファレンスで話し合い、サービスの向上に取り組んでいる。	市役所と相談しながら、民生委員や家族にも参加を呼びかけた運営推進会議を実施。感染拡大期は職員のみで行った。利用者の状況や行事の報告を行い、意見交換をしている。職員は会議録を回覧し確認している。家族にはいつでも確認できるよう会議録を玄関に置いたり、家族会で報告しているが、コロナ禍の今、玄関の会議録確認は難しい。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	推進会議などで施設での取り組みを伝えている。又、市の生活福祉課や介護長寿課とも利用者様の事で話をする機会も多々ある。	運営推進会議の前には常に開催方法について相談し、市の担当課とも良好な関係が構築できている。コロナ関連の情報など、連日のようにFAXが届いていた。生活保護受給者の利用があり、生活保護担当課とも連携し支援している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3か月に1回、同グループのスタッフと合同で研修会を行い、自施設で改めて話し合いを行っている。	3ヶ月に1回、系列のグループホームと身体拘束合同会議を行い、「接遇」や「アンダーマネジメント」などの研修を実施している。研修内容は、カンファレンスで報告したり、議事録を作成して職員全体に周知している。夜間のみセンサーマットを使用している方がおり、家族から口頭での了承を得て、その旨記録している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体だけではなく、言葉による虐待もある事を話し合い、虐待防止を念頭に置き日々対応している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要に応じて活用できるように権利擁護に関する制度について学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な時間を設け丁寧に説明し、納得理解をして頂いている。不安や疑問点があれば、その都度説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様とのコミュニケーションをとり、思いを組み、支援に活かしている。また、コロナ禍の為、電話で様子を伝えたり、要望を尋ねるようにしている。	利用者は、新聞広告を見ると食べたいもの訴えが多く、なるべく希望を取り入れるようにしている。面会は窓越しやアクリル板越しで行っており、通常面会の再開時期はリーダー会議で検討している。家族からは、リモートでの面接要望があり昨年の11月から開始。遠距離の家族とも話すことができている。季刊で広報誌を発行するほか、毎月の請求書に写真を添付して、利用者の状況をお知らせしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回カンファレンスを行っており、職員の意見や提案を聞き、その意見や提案を管理者、リーダー会議で検討し運営と反映させている。	カンファレンスでの意見交換のほか、管理者は、コロナ感染予防で行動制限が多い職員のストレスについても様子を見ながら声かけする等の配慮をしている。物品等は管理者が代表に承諾を得て購入している。シフト作成は希望休を聞きながら、有給休暇取得に努めている。職員からも、働きやすい職場で、意見を積極的に取り入れてもらうことができているとの声が聞かれた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、働きやすい環境作りと、従業員の意欲の向上に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍の為、オンラインでの研修に参加している。また、少人数で短時間の研修も適宜に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	感染症対策を行った上で、近隣の同業者との交流を図り、サービスの質の向上への取り組みを行っている。また、市のケアマネジャーのオンライン研修会や利用者入所時の事前訪問などで他施設への訪問の機会があった。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様とのコミュニケーションを積極的にとり、不安な事や困っている事がないかを確認し、安心・安全に生活して頂けるようより良い環境作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	現在コロナ禍の為、面会が難しい状況にあり、電話等で家族とコミュニケーションをとることがおこなわれている。家族の要望や質問等は管理者を中心に話し合い、信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントを行い、利用者様の気持ちを理解したうえで、必要な支援は何かを検討し、対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人のが得意な事・好きな事は積極的に活動して頂いている。団子づくりや祭りのことなども昔のやり方を聞きながら、教えて頂きながら、一緒に準備した。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の思いや気持ちに寄り添い、家族との電話や手紙等で交流して頂けるような支援をしている。家族との絆を大事にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族と電話で話をする機会を持って頂いたり、昔の写真を見て思い出して連絡してみたりと、関係性が継続できるよう支援している。	友人や家族に手紙や年賀状を書いたり、電話やリモート面会を支援している。昔の写真を自室のテーブルに広げて職員に説明してくれたり、写真を見て思い出した人に電話してほしいという方もいる。理美容は利用者の状況を見ながら顔馴染みの美容師に訪問を依頼している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	新規利用者が入所したり、環境が変化している中で、利用者様同士がコミュニケーションを上手くとれるよう、職員が間に入ったりして、利用者様同士の関係を支えるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後の在宅生活で、不安や困りごとがないよう、退所後の様子を電話で聞き取りをしたり、自宅の市町村の地域包括支援センターに支援相談をした。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の時間を大切にし、個別で傾聴できる時間を取るようにしている。コミュニケーションが難しい方とは、本人の言葉や行動から、利用者様の気持ちをくみ取るようにしている。	コミュニケーションがとれにくい方は、表情をよく観察して思いをくみとるようにしている。食べ物に関する希望が多く、お寿司や刺身など衛生面に配慮しながら配達やテイクアウトを利用して、思いに添えるよう支援している。病院からホーム利用になった方の「自宅で暮らしたい」との強い思いを受けとめ、リハビリの支援を行い、歩けるようになったことで退去できた方がいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の言葉や行動の中から、昔の生活や環境を伺い、今までのように馴染みのある生活に近づけるような環境作りに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝のバイタルチェック、週1回の体重測定で、体調に変化はないか確認している。また、本人の残存機能を活かした介助を心掛け、その時の状況に合わせて介助している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	半年毎にモニタリング・ケアプランの見直しを行っており、状況の変化時には、目標が合っているかを、カンファレンスで話し合い、一人一人に合ったケアプランを作成し、実践している。	担当職員がアセスメントを行い、ケアプラン原案を作成。カンファレンスで話し合っ、計画作成者が仕上げており、チームでプランを作りあげている。モニタリングも半年毎にカンファレンスで話し合っ行っている。プランを見ながら記録を作成し、支援時にもプランを意識できている。家族には、面会時に説明して印をもらい、遠方の方には郵送して電話で説明をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に詳細に残し、スタッフ間の情報の共有に努めている。その時にあったケアを話し合い実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	各々の希望を聞いたうえで、理髪をお願いしている。一人一人のニーズに合わせて、必要なものを用意するようにしている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在感染症対策の為、施設内でのボランティアの受け入れを行っていないが、屋外の地域の方の清掃ボランティアは感染症対策をした上でお願いしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人や家族の希望に沿って、歯科や病院を受診できるよう支援している。月1回往診もして頂いており、主治医からの話も家族に伝えている。	全員が協力医の往診を受けており、受診後は看護師がすべての家族に電話で様子を報告して業務日誌に記録している。家族から医師と直接話したい希望がある時には、医師との予定を調整し繋いでいる。歯科など外来受診はコロナ禍で職員が介助している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調の変化や本人の訴えがある時は、その都度看護師に相談し、必要に応じて受診できるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力病院との連携は随時取っており、往診時に相談したり、情報の交換を行っている。また、病院のソーシャルワーカーと入院中の情報を交換し、退院後の環境づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に、ターミナルケアを行っている施設である事を説明している。普段の会話から、本人の希望を聞き取り、家族とも話しあつた上で、希望に沿った終末期となるよう支援している。	契約時の説明後も、普段の会話の中で利用者や家族の意向を確かめ、重度化した時には、医師や家族、看護師が話合つて方針を決め、書面で確認している。職員には、看取り後に行ったアンケートをもとに、今後につなげられるように研修を実施している。職員からは、本人や家族の希望を職員が共有して支援できたと思っている、不安はあつたが24時間、医療機関と連絡が取れる体制が整っていたことが心強かつた、との話が聞けた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が急変時・事故発生時のマニュアルを周知している。発生時には、迅速に行動できる体制をとっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	停電時の備えとして自家発電機を導入し、職員に講習会を行った。年2回以上消防署・火災報知器の業者の協力のもと、避難訓練を実施しており、職員・利用者様共に確認している。	推進会議に合わせた避難訓練はできなかったが、夕食後に夜間の地震を想定しての訓練を行った。座布団を頭に被り、利用者は落ち着いていた。連絡網は一斉メールで確認の連絡が入り、日ごろの事務連絡等も訓練の一環として行っている。停電時に備えて発電機を用意し、月2回点検もしている。2週間分の食料品や寒さ対策グッズも備蓄している。持ち出しグッズには、口腔ケアの歯ブラシも用意した。災害毎のマニュアルも作成済。	玄関からの避難訓練のみでなく、食堂や非常口からの避難体験を検討していただきたい。コロナ収束後に推進会議を利用した訓練を行い、消防団との連携等を模索・検討することを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ誘導時は、言葉かけに気をつけている。利用者同士のトラブル時には、職員が間に入り、居室で話を聞いたり、利用者様が傷つかないような支援をしている。	トイレ誘導時には、他の方にはわからないような言葉かけを行っている。トイレの回数は多いが、朝の混雑時にもゆっくりと利用できるような配慮をしている。写真掲載には家族の同意を得て、面会簿も個票にしているが、コロナ禍の間、職員が業務日誌に面会記録をつけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の希望にあわせ、各々やりたいことが出来るよう声かけ・支援している。野菜の収穫や皮むきも出来る範囲で参加していたいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様一人一人のペースに合わせて支援している。就寝時間や起床時間、時には食事の時間も希望に合わせて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人様の希望や季節に合わせた洋服を選んで頂けるよう声かけ支援している。身だしなみも自分でして頂けるように工夫をして声かけしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	現在感染症対策の為、月一回行っていた外食は中止しているが利用者様の食べたい物を聞いて買ってきたり、行事等で好きな物を召し上げて頂いている。	3食とも、利用者の希望やその日の食材から献立を考えて調理している。目でも楽しめる行事食、誕生日には希望を聞いてケーキバイキングを企画したり、外にテーブルを出してハンバーガーを食べたり、外食に代わる食の楽しみを実現している。ホーム前の畑で作るサツマイモやスイカ、落花生、ネギ、葉物を収穫して下ごしらえすることも利用者の楽しみとなっている。お月見団子作りが得意な利用者もいる。飲み物の種類を記したボードに自分の名前のマグネットを貼って飲みたい物の希望を伝える工夫があった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日を通して食事量、水分量を記録し水分が摂れてない方は、好きな飲み物で摂って頂いてる。食事形態については、一人一人に合った形で工夫し提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声かけを行っている。毎晩義歯洗浄剤を使用している。夜間も痰などがつまらないよう状況に合わせて口腔内清掃を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録から本人の排泄のリズムをつかみ、それに合わせて声かけ、指導している。おむつを使用している方でも1日1回はトイレで排泄ができるよう支援している。又、夜間トイレの電気をつけておき場所がわかる工夫をしている。	トイレで排泄できるように支援しており、おむつ使用の方も、日中はトイレに誘導している。自立している方の排便は、使用後のトイレを確認したり、本人に聞いて確認するようにしている。夜間のポータブルトイレ使用は、センサーマットによる安全確認をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	1日1回午前中に乳製品を摂って頂いている。根菜、きのこなど食物繊維の多い食事にしたり、運動も取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本1日おきの入浴を理想としているが、体調によって入れないときもある。衛生面では、個人のタオルを使用して頂き感染症対策をしている。	1日おきの個浴で、リラックスして職員との話が弾むこともある。ゆず湯やしょうぶ湯など季節の湯を楽しみ、歌を歌う方もいる。拒否があった時は無理強いはしない。脱衣所にエアコンが設置され、個人のタオルを使用し、衛生面や温度差に配慮している。皮膚疾患は医師に相談し、個別の処方に沿っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの習慣に合わせて、照明や部屋の温度を調整したり、寝具の工夫をしている。夜間眠れなかったり不安になってしまう方には話を傾聴をし、安心して休んで頂くよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報は常に見れる状態にしている。変更があれば申し送り等で伝えたりノートを活用している。本人の変化など記録に残したり、スタッフ同士情報を共有する。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の好きな事、楽しみを色々な角度から発見し、気持ちに寄り添えるよう支援を心かけている。利用者様の希望を食事やおやつにも取り入れ楽しみを持ってもらうよう心がけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年度はコロナ禍で外出や地域の人々との交流ができなかったが、その分天気の良い日はウッドデッキでレクリエーションをしたり、行事などを屋外で行いリフレッシュを図っている。	コロナ禍で、人混みには出かけられなかったが、車窓からの花見や近所の散歩、畑に行くなどして気分転換を図っている。ウッドデッキにテーブルを出して食事やお茶を楽しんだり、ひなたぼっこをしたりしている。ドライブに行ける時期を検討したいと考えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理されている方もいる。今年もコロナ対策にて外出が難しい為ご本人の希望するものをスタッフが代わりに購入し、領収書と引き変えに代金を頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話で話をされたり、ご本人様の希望でこちらから電話をかけてお話される事も度々ある。葉書や手紙でのやり取りは継続されており、葉書で家族・兄弟との交流をされている方もおられる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テラスには、季節の花を置き、景色を楽しめる工夫をしている。窓を開けると季節によって鳥の鳴き声が聞こえ、天窓からは自然の明るさを感じられる。隣接の畑で採れた野菜で季節を楽しめる工夫をしている。	加湿器や空気清浄機を設置し、天窓で換気をして感染予防に配慮している。室温はエアコン調整に加え、ひざ掛けや上着、うちわなど個別の対応をしている。廊下の壁には、運動会や敬老会、誕生会などの行事写真が飾られており、利用者が眺めて会話を楽しむこともある。日中は食堂でテレビや歌、塗り絵、レクなど楽しみ、文字を書いてもらったり、裁縫が得意な方に台拭きや繕い物をお願いしている。読書している方を見て、新たに本を読み始めた方もいる。食堂には、利用者達が楽しみながら作った絞り染めが額入れられ飾られていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	好きな場所で活動していけるよう個々の希望に沿って、やりたい活動をして頂き快適に過ごして頂けるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使われていたタンスや家具をご家族に持ってきて頂き、安心できる空間作りを考慮している。居室入口の名札も、本人の趣味や大切なものを目印にして、わかりやすく工夫している。	入り口には、利用者の好みに合わせた職員手作りの表札がかけられている。洗面台付きの居室には使い慣れたタンスやテーブル、椅子が置かれ、家族写真などが飾られていた。テレビやCDを楽しんでいる方、シンプルに広く使っている方など、個人の思いに沿った部屋作りがされていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分で出来ることは、自分でして頂けるよう声かけている。一人一人の出来る事に合わせ個々の意欲を引き出せるよう工夫している。		

(別紙4(2))

事業所名 : グループホーム こもれ陽の家

作成年月日 : 2022年1月17日

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	玄関からの避難訓練のみではなく、食堂や非常口からの避難体験を検討した方が良い。推進会議を利用した訓練の実施、消防団との連携等の模索・検討してはどうか。	①玄関以外の場所での避難訓練の実施 ②地域住民と連携した避難訓練の実施	①食堂テラスからの避難を検討し、階段部分の修繕し、スロープの購入して、車椅子でも安全に避難できるようにした。修繕後、1月に避難訓練を実施した。 ②推進委員との避難訓練はコロナ収束後開催予定。消防団との話し合いを進めている段階である。	6ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。